

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村二丁目4番25号
自己評価作成日	平成28年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は閑静な住宅地にあり、毎日気軽に買い物に出かけたり安心して散歩を行ったりすることができる。利用者様も精神的に安定した生活を送ることができている。
職員と一緒に食事の支度などを行うことにより、不安な行動もなく穏やかな生活が送れている。
家族との絆を深めるために、墓参りや家の行事ごとに参加できるよう積極的に支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して5年が経過した当事業所は静かな住宅地にある。開設時の熱い思いを「その人らしさを大切に温もりのある支援と介護を目指します」という理念に掲げ現在も継続している。職員は「利用者一人ひとりの希望に沿えるよう対応し自宅に近い生活をしてほしい。」と利用者との日々の関わりを大切にしている。今後は外の空気を吸い変化のある生活ができるように、外出する機会を増やすよう検討中である。また職員は、書類の見直しを積極的に検討したり、研修への参加に意欲的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
(ユニット名)	ちとせ
記入者(管理者)	
氏名	田坂慶子
評価完了日	平成 28年 5月 27日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設の目に付く場所(入口やリビング)に「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指します」との理念を掲示し、一人ひとりの職員が理念に沿ってケアを実施できるように心がけている。	
			(外部評価) 開設時に経営者の思いを込めて作成された「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指す」という理念に基づき、管理者は毎月の職員全体会で「利用者本位」ということを忘れないよう周知徹底を図るとともに、玄関やリビングに掲示し職員一人ひとりが確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の住民に向けて、施設の一部を開放することを告知するチラシを自治会で回覧して頂くところまで話を進めているところである。	
			(外部評価) 事業所は自治会に加入しており、経営者は自治会長を務めている。地域の盆踊りへの参加や秋祭りの太鼓台、地域ボランティアによるフラダンス、お手玉の会、ギター演奏、三味線、中学校の吹奏楽演奏や小中学生のふれあい訪問を楽しみにしている。今後は自治会に行事や相談をする場を提供するなど、地域との交流をより深めることを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症に関する、地域の方々からの相談や施設見学など、地域に向けて情報を発信する事に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を2か月に一回開催して、そこでいただいた評価やご意見をもとに、改善に取り組んでいるところであるが、参加委員に災害時避難訓練や食事の試食に参加して頂くことまでは実施できていない。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、自治会長、民生委員、市議会議員、市介護福祉課職員、家族等の参加を得て開催している。全員が参加できるよう参加者の都合を優先し会議の開催日を調整の上決めており、事業所の現状報告や利用者の近況報告、行事報告等を行い意見交換を行うなど、有意義な運営推進会議になっている。</p>	<p>会議への参加率が高く意見交換も活発に行われているが、より具体的な議題を上げて話し合い、意見を集約しサービス向上に活かしていけるような取組みに期待したい。また職員も交代で参加し地域の情報をより具体的に得て地域住民との連携をさらに深め、地域に根ざした事業所となることを望みたい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、市の担当者にも出席してもらい、意見交換を行うことで協力関係を構築している。</p> <p>(外部評価) 市担当職員は毎回、運営推進会議に参加し事業所の状況を理解し情報交換している。また市の窓口に出向いて利用者の事情等について相談したり、後見人制度の申請などを行っている。地域包括支援センター職員に生活保護についての相談を行い、ケースワーカーの来所もあり市関係者と協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施設内で身体拘束に関する研修を実施し、どのような行為が身体拘束に該当するかを職員が理解した上で、たとえば玄関などの出入口を施錠することで行動を制限することがないように、普段から身体拘束をしないケアを実践している。</p> <p>(外部評価) 毎月のユニット会議で研修を実施し精神的、身体的な拘束について職員全員が理解を深めている。骨折で打撲痛を訴える利用者には医師の指示により安全確保をしたり、外に出ようとする利用者には様子を見ながら声をかけたり利用者と一緒に歩くなど支援しており、身体拘束をしないケアを徹底している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内で「高齢者虐待防止法」について研修を実施している。また、日々、利用者の身体的・精神的な変化に気付いた際には、記録を取り、職員間でその情報を共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内で権利擁護に関する研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。必要に応じて、利用者や家族に対して、それらの制度について説明し、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にサービスや料金の細部にわたり説明し、利用者とその家族の理解を得た後に契約を交わしている。また、利用開始後においても、利用者や家族からの意見を聞き、提供するケアについての理解と同意を得られるように説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族からの意見に耳を傾けるだけでなく、施設の入口に御意見箱やノートを設置することで施設に意見を述べやすい体制を整えている。寄せられた意見については、職員の間で共有し、運営に反映できるように改善に努めている。また、毎月、利用者の状態をまとめた「日常生活報告書」を家族に送付している。	
			(外部評価) 担当職員は日頃の利用者との会話を大切にし意見や要望を聞いており、聞き取った内容は連絡ノートに記録し職員全員が共有している。また、家族からは契約時に生活状況や健康状態を聞き取るほか、面会時に意見や要望を聞き面会カードに記載している。夏祭りや敬老会後に家族から意見や要望を聞く機会として家族会を設けるなど、意見を出しやすい工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者が普段から職員の意見に耳を傾けるだけでなく、全職員が参加するミーティングである合同ユニット会では、職員と互いに意見を交換したり提案を聞いたりする時間を設け、施設の運営に反映できるように努めている。 (外部評価) 毎月経営者、管理者、全職員が参加して合同ユニット会を開催しており、7委員会を設け全職員がそれぞれの委員会にかかわりユニット会で報告するなど積極的な意見交換を行っている。また各ユニットで利用者の様子や変化、注意点など報告し熱心に話し合うほか、内部研修を実施し全職員が研修報告書を提出し充実した研修となっている。職員の資質向上も見込めるが、今後は職員の更なるレベルアップを目標に外部研修も積極的に取り入れる方針である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、すべての職員が向上心を持って働くことができるように、職場環境や条件について整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月行う合同ユニット会において研修を実施したり、施設外で開催される研修会への参加を促したりすることにより、職員一人ひとりの力量の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 施設外で開催される研修会に参加した際には、できるかぎり同業者と交流する機会を作り、情報交換を行うことを職員は意識している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前の面談や、入居時に利用者の意見を丁寧に聞き取り、それらの情報を職員が共有し合うことで、利用者が毎日安心して暮らしていけるように、信頼関係の構築に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者と家族の意見や要望などに耳を傾け、その気持ちを受けとめた上で、サービスなどについて説明し、信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族との面談や、普段交わされる会話から、必要としている支援を見極め、適切なサービスが利用できるように配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者と食事を共にしたり、レクリエーションと一緒に参加したり、雑談をしたりすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活状況や健康状態を書面にした「日常生活報告書」を毎月家族に送付することや、家族が気兼ねなく施設を訪問し、面会できる環境を整えることにより、利用者と家族との絆を大切に、家族と共に支える関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が話がしやすいように職員が仲介したり、毎月季節を感じる行事を行うことにより、利用者同士の交流を図ったりして、お互いの親睦を深めていくよう支援している。 (外部評価) 入居時に利用者一人ひとりの生活歴、馴染みの人や場所を把握している。馴染みの美容室や化粧品店へ行ったり、馴染みの店で化粧品を買ったり自宅に戻り仏壇に手を合わせるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。またユニット間やデイサービスとの交流が新しい馴染みの関係となるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日頃から利用者同士の人間関係を把握した上で、互いに協力したり励まし合ったりできる作業を行っていただくほか、利用者同士が交流しやすいように、座席の配置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療機関に入院したり施設を退所したりした後も、ご家族からのご相談により再度受け入れを行ったり、他の施設をご案内したりするなど、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の言葉や行動から意向を汲み取った場合には、職員全員がその情報を共有できるように専用のノート（「申し送りノート」）に記述している。なお、利用者本人からの情報の聞き取りが困難である場合には、家族からもお話を聞き、意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者との日常会話や食事の時に聞いた大切な言葉は、申し送りノートに記録し職員会で報告するなど職員間で共有している。また自分の思いを伝え難い利用者は、職員が日頃の様子や表情を見逃さないように努め、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 他のサービス機関からの情報や、ご家族からの聞き取り、利用者との会話により、入居する前の、一人ひとりの生活歴を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日を通して利用者の行動を観察し記録したり、毎朝バイタルチェックを行ったりすることにより、利用者がどのように一日を過ごしているか、また、心身状態はどうかといったことを把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) モニタリングシートを新しく作り直し、モニタリングの結果を定量化できるようにした。また、毎月一度行っているユニット会において、担当者だけでなく、すべての職員で一人ひとりの利用者の現状について気づいた点を話し合い、家族に連絡して意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや意向を把握し介護計画に取り入れている。毎月モニタリングを行いサービスの実施状況や変化を話し合い、3か月毎に計画の見直しを行っている。家族からは面会時や電話で状況を報告し要望を聞いている。また一連の書式を見直し、サービス内容と実施内容、モニタリングなどわかりやすくなっており、職員全員が共有し実践することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者別の一日の様子や状態を記録するとともに、利用者について気づいた事を職員間で共有するための「申し送りノート」を活用することで、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 施設内では身体介護に偏ることなく、利用者や家族の言葉に耳を傾けるメンタルケアを行ったり、ニーズを充足できる社会資源を紹介したりする取り組みを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方々との関わりや、地域の小学校や中学校の児童や生徒との交流、地元の商店での買い物、散歩、ドライブなどにより、楽しみながら生活ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者本人や家族の希望に応じたかかりつけ医を受診する際 には、その意思を尊重している。また、普段から、施設の担 当医が定期的（月に2回）に往診しており（なお、急変時 には往診を行ってもらっている）、利用者が適切な医療を受け ることができるように支援している。 (外部評価) かかりつけ医は入居時に利用者や家族と話し合い、協力医に 移行できるよう支援している。継続を希望する利用者は家族 受診を基本としているが、車いす利用者の送迎などの場合は 職員が協力している。協力医は月2回の往診と週3回の訪問 看護で健康管理を行っているほか、急変時の対応も可能であ る。また眼科や歯科の往診もあり、必要に応じて受診するこ とができ医療面は万全である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎週火曜日・木曜日・土曜日には、利用者一人ひとりの心身 状況などを訪問看護師に報告したり相談したりすることで、 適切な受診や看護を受けることができるように支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 治療方針や早期退院について、利用者と家族と話し合いの場 を設け、かかりつけ医や施設の担当医など、病院の関係者との 情報交換や相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 毎年行っている家族会において、終末期には看取りを含めた 対応について説明している。また、すべての職員が同じ対応 ができるように、介護の方針を統一しているだけでなく、訪 問看護やかかりつけ医、施設の担当医との連携体制も構築で きている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族に事業所のターミナルケアについて説 明し要望などを聞いている。これまでに3名の看取りを経験 しており、利用者の病状に応じて医師、看護師、家族、職員 など関係者と話し合い連携を図り、安心して最期を迎えられ るよう支援している。	看取りケアを経験し、今後も利用者や家族の要望に そって受け入れていくことから職員全員で看取りに関 する考え方の見直しを行うほか、機会ある毎に研修に 参加するなど職員の更なるレベルアップを図り、利用 者や家族がより安心して最期を迎えることができるよ うなることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時には、訪問看護師および施設の担当医に報告し、必要な時には救急搬送することを分かりやすい図にして施設内に掲示している。また、急変や事故が発生した場合の対応方法については、施設内で研修を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練や初期対応を訓練しているだけでなく、地域の消防署から直接、消火訓練の指導を受けるなど、地域との協力体制を築いている。また、すべての職員は、一人ひとりの利用者が避難する際の方法を理解している。 (外部評価) 年2回、日中と夜間を想定し内1回は消防署立会いの下避難訓練を実施しており、緊急連絡網を実践して職員全員が緊張感を持って非常事態に備えている。また事業所を地域の避難場所として提供するほか、水、乾パンなどを備蓄し災害時に備えており、地域住民との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の居室に無断で入室しないことや、個々のプライバシーに関する話は他者に聞こえない場所で行うなど、利用者のプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 個人情報には外に持ち出さないこと、日常生活の中でも必要以外にふれないよう統一しており、職員間で情報管理を徹底している。入浴時は羞恥心に配慮し、居室は利用者一人ひとりの家として捉え、入室時は必ずノックするほか、声かけ等には特に気を配り、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本位のケアについて、施設内で研修を行うことで、利用者が職員に話しやすい雰囲気作りに日頃から努め、押し付けない支援を心掛けてケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事の時間など、施設側が決めた時間以外は、利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるように職員は配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員は、利用者の好みを尊重しながら、季節に適した衣類を選択する手伝いをしている。また、衣服が汚れていないか、清潔が保たれているかといったことを職員が気にかけて、一人ひとりの利用者に必要な支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を準備する際には、できるだけ利用者に手伝ってもらっている。また、食事を摂る際には、利用者のテーブルに職員も加わり、会話をしたり安全に食事ができているかを確認したりしている。 (外部評価) 食事は遅出職員が1日分の食材を購入し、勤務の職員がメニューを考え調理している。利用者の好みは入居時に聞き取っているほか、食事の残量や会話の中で把握し献立に取り入れている。自宅で使っていた茶碗、箸、コップを使用し、誕生日や敬老の日、お正月は特別メニューとしている。利用者は下ごしらえや後片付けをし、職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる。また魚は身をほぐしたり、刻み食、一口大、ミキサー食にするなど利用者に合わせて食事形態にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事と水分との摂取量を記録しており、食事の摂取量が少ない方には代替食を提供したり、水分不足にならないように声かけして飲んでいただいたりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの利用者に声かけして口腔ケアを促したり、お一人で口腔ケアが困難な方には職員が介助したりして口腔内の清潔を保持している。また、訪問歯科診療を利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録を利用することで、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、適切な時間にトイレ誘導や排泄介助を行う体制を整えている。	
			(外部評価) 日々の排泄記録を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者に合わせて声かけを工夫するなどトイレでの排泄を支援している。日中のリハビリパンツ、夜間のオムツやポータブルトイレなど利用者の状態に合わせて対応している。また転倒で打撲痛のある利用者などは日頃の様子をよく観察した上でのトイレ誘導により、日中はトイレで排泄が可能になるなど自立に向けた支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便の有無を毎日確認し記録して確認している。また、食事に食物繊維の多いものを取り入れたり、一日の水分量を記録したり、運動を行うことを促したりすることで便秘の予防に努めており、訪問看護師や施設の担当医に相談の上、便秘気味の利用者には緩下剤を利用して対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) できるかぎり、利用者が希望する時間帯を尊重し、希望する時間が重複する場合には、職員と利用者とは話し合い、入浴時間の調整を行っている。	
			(外部評価) 浴室はシャワーキャリーを設置しているほか2人介助で対応しており、重度の利用者も安全に入浴することができる。入浴は1日置き、週3回を基本としているが、汗をかいた時など利用者の希望に合わせて対応したり、入浴剤を使うなど利用者と職員、1対1の対応でゆっくり入浴することができている。また入浴の苦手な利用者は声かけを工夫しスムーズに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者が休みたいときには、自由に居室で休息していただいている。また、居室や共用のリビングは毎日職員や利用者が清掃し、寝具を定期的に洗濯したり干したりすることで、気持ちよく眠ることができる支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、利用者一人ひとりのお薬手帳や薬の説明書にある効能や注意事項を確認して、用法や用量について職員が理解を深めるようにしている。体調や病状が変化した際には、訪問看護師に相談の上、施設の担当医の指示を仰ぎ、対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フェイスシートなどの情報から、利用者のADLや生活歴を把握した上で、料理などの家事をお手伝いいただくことで役割を実感していただいたり、普段の会話などで本人の興味や関心があることを話題にしたりして気分転換の支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気のよい日には、利用者がホームの周囲に整備した花壇を見て回ったり、季節を感じていただけるように自動車を利用してお花見や紅葉狩りなどに出かけている。	
			(外部評価) 行事担当職員が月1回の外出を計画し、紫陽花ロードドライブ、桜や菖蒲など季節の花の見物、気候等に合わせた事業所の周辺を散歩するなど、気分転換を図っている。また、利用者の誕生日にファミリーレストランに外食に出かけるなど外出が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者をご自身で管理できる範囲で、金銭を所持していただいている。なお、管理しかねる金銭については、事務所で預かり、買い物をした際には、買い物手帳に金銭の出納を記録し家族に確認をいただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に連絡を取りたい時には、施設に備えてある固定電話を利用していただいたり、携帯電話を所持している利用者の場合には自由に家族に連絡していただいたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、一日一回は必ず職員や利用者が清掃を行っており、衛生が保たれていることを職員が確認している。また、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるように、部屋の明るさや、室温と湿度の調節を行っている。 (外部評価) 玄関を入るとユニットが左右に分かれ自由に行き来することができる。リビングは広く明るく調理場から全体を見通すことができ、利用者は自由に安全に過ごすことができている。空気清浄器をユニット毎に2台設置したり、職員が交代で清掃し清潔な環境の中で過ごすことができている。また季節の花や利用者の優しい笑顔の行事の写真を飾るなど、穏やかに過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用のリビングには、どなたでも利用できるソファを配置したり和室を開放したりしている。また、気の合う他の利用者とは自由に交流ができるように共用のスペースを思い思いに利用していただいている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者には、長年使い慣れた持物を使用していただいたり、思い出のアルバムや記念の品物を居室に並べていただいたりすることで、入居後も居心地よく過ごせるように配慮している。 (外部評価) 居室はベッドとエアコンが常備され、使い慣れた枕や布団を持ち込んで使用しており安心感がある。椅子、小さなダンス、鏡、位牌や孫の写真など自分のお気に入りのものを持ち込み、利用者の好みに合わせて配置している。また部屋の片付けは担当職員が行い、日勤者が交代で掃除し居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 施設の床には段差がなく、また壁面には手すりを設置するなど、安全な環境を整えている。そこで、利用者は、家事を手伝ったり好きな時間にテレビを見たり本を読んだり会話を交わしたりして、自立した生活ができている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村二丁目4番25号
自己評価作成日	平成 28年 5月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は閑静な住宅地にあり、毎日気軽に買い物に出かけたり安心して散歩を行ったりすることができている。利用者様も精神的に安定した生活を送ることができている。
職員と一緒に食事の支度などを行うことにより、不安な行動もなく穏やかな生活が送れている。家族との絆を深めるために、墓参や家の行事ごとに参加できるよう積極的に支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して5年が経過した当事業所は静かな住宅地にある。開設時の熱い思いを「その人らしさを大切にできる温もりのある支援と介護を目指します」という理念に掲げ現在も継続している。職員は「利用者一人ひとりの希望に沿えるよう対応し自宅に近い生活をしてほしい。」と利用者との日々の関わりを大切にしている。今後は外の空気を吸い変化のある生活ができるように、外出する機会を増やすよう検討中である。また職員は、書類の見直しを積極的に検討したり、研修への参加に意欲的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家なかむら

(ユニット名) のぞみ

記入者(管理者)

氏名 田坂慶子

評価完了日

平成 28年 5月 27日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 玄関ホールやリビングなど目につく場所に「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指します」という理念を掲げ、一人ひとりの職員がその理念を実践できるように努力している。</p> <p>(外部評価) 開設時に経営者の思いを込めて作成された「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指す」という理念に基づき、管理者は毎月の職員全体会で「利用者本位」ということを忘れないよう周知徹底を図るとともに、玄関やリビングに掲示し職員一人ひとりが確認しながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の住民に向けて、施設の一部を開放することを告知するチラシを自治会で回覧して頂くところまで話を進めているところである。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会に加入しており、経営者は自治会長を務めている。地域の盆踊りへの参加や秋祭りの太鼓台、地域ボランティアによるフラダンス、お手玉の会、ギター演奏、三味線、中学校の吹奏楽演奏や小中学生のふれあい訪問を楽しみにしている。今後は自治会に行事や相談をする場を提供するなど、地域との交流をより深めることを考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設見学や介護相談を気軽に受け入れ、情報発信に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を2か月に一回開催して、そこでいただいた評価やご意見をもとに、改善に取り組んでいるところであるが、参加委員に災害時避難訓練や食事の試食に参加して頂くことまでは実施できていない。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、自治会長、民生委員、市議会議員、市介護福祉課職員、家族等の参加を得て開催している。全員が参加できるよう参加者の都合を優先し会議の開催日を調整の上決めており、事業所の現状報告や利用者の近況報告、行事報告等を行い意見交換を行うなど、有意義な運営推進会議になっている。</p>	<p>会議への参加率が高く意見交換も活発に行われているが、より具体的な議題を上げて話し合い、意見を集約しサービス向上に活かしていけるような取組みに期待したい。また職員も交代で参加し地域の情報をより具体的に得て地域住民との連携をさらに深め、地域に根ざした事業所となることを望みたい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日頃より連絡を密にするとともに、運営推進会議には、市の担当者に出席をしていただき、意見交換することで協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 市担当職員は毎回、運営推進会議に参加し事業所の状況を理解し情報交換している。また市の窓口に出向いて利用者の事情等について相談したり、後見人制度の申請などを行っている。地域包括支援センター職員に生活保護についての相談を行い、ケースワーカーの来所もあり市関係者と協力関係ができています。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的な施設内研修を実施することにより、精神的や肉体的な拘束について知識を深め、一人ひとりの職員が理解した上で、日々の支援を実践している。</p> <p>(外部評価) 毎月のユニット会議で研修を実施し精神的、身体的な拘束について職員全員が理解を深めている。骨折で打撲痛を訴える利用者には医師の指示により安全確保をしたり、外に出ようとする利用者には様子を見ながら声をかけたり利用者と一緒に歩くなど支援しており、身体拘束をしないケアを徹底している。</p>	<p></p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内での研修では、「高齢者虐待防止法」等を学習し、ユニット内で虐待がないかスタッフ同士が意見交換し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内での研修において、権利擁護に関する制度の理解を深め、必要に応じて利用者や家族に説明している。また、それらの制度を活用している利用者もいらっしゃる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、提供できるサービスや料金など、細部にわたり説明し、疑問点や不安を解消し納得を得ている。契約後も利用者や家族の意見に対しては丁寧な説明を行い、理解と納得を得られるように図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族から意見が述べられた際には傾聴するとともに、それらの情報を管理者と職員とが共有して、施設の運営に反映するように努めている。	
			(外部評価) 担当職員は日頃の利用者との会話を大切にし意見や要望を聞いており、聞き取った内容は連絡ノートに記録し職員全員が共有している。また、家族からは契約時に生活状況や健康状態を聞き取るほか、面会時に意見や要望を聞き面会カードに記載している。夏祭りや敬老会後に家族から意見や要望を聞く機会として家族会を設けるなど、意見を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者出席のもと、全職員が参加するミーティングである合同ユニット会を毎月開催しており、自由な意見交換ができています。代表者も時間の許す限り出席して、職員の意見を施設の運営に反映できるように配慮している。	
			(外部評価) 毎月経営者、管理者、全職員が参加して合同ユニット会を開催しており、7委員会を設け全職員がそれぞれの委員会にかかわりユニット会で報告するなど積極的な意見交換を行っている。また各ユニットで利用者の様子や変化、注意点など報告し熱心に話し合うほか、内部研修を実施し全職員が研修報告書を提出し充実した研修となっている。職員の資質向上も見込めるが、今後は職員の更なるレベルアップを目標に外部研修も積極的に取り入れる方針である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員との意見交換を積極的に行い、職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修会に参加を奨励し、参加した職員から研修で学んだ情報のフィードバックを得ることにより、組織のスキルアップを図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 施設外の研修や見学に参加して同業者と交流し、サービス向上に努めるようにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前や入居時に利用者本人から丁寧に意見を聞き、フェースシートを作成して情報を職員全員で共有し寄り添った支援を提供して安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者や家族の意見や要望を丁寧に聞き取り、その気持ちを受け止めた上で、提供するサービスや利用料金について説明し、信頼関係が構築できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族との日常的な会話から、職員一人ひとりが必要とされる支援を見極め、訪問看護や施設の担当医にも相談し適切なサービスが提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者に寄り添い、一緒に洗濯物を片付けたり軽作業をしたり、食事を共にし談笑したりすることで暮らしを共にする者同士の関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の近況報告である「日常生活報告書」を作成し、毎月家族に宛て送付している。また、利用者が希望すれば家族に電話したり、家族が気兼ねなく面会できるように環境を整えたりして本人と家族の絆を大切にしながら共に利用者を支えているように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が話がしやすいように職員が仲介したり、毎月季節を感じる行事を行うことにより、利用者同士の交流を図っている。また、職員と一緒に家族の住まう家に帰ったり、知人の訪問を快く受け入れたり、なじみの店で買い物ができるように同行したりして、これまで大切にしてきた場所や人との関係が途切れないように支援し努力している。 (外部評価) 入居時に利用者一人ひとりの生活歴、馴染みの人や場所を把握している。馴染みの美容室や化粧品店へ行ったり、馴染みの店で化粧品を買ったり自宅に戻り仏壇に手を合わすなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。またユニット間やデイサービスとの交流が新しい馴染みの関係となるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同志の関係を把握した上で座席の配置を考慮して職員とともに共同作業（調理の下ごしらえや工作等）をしたり、互いに声掛けしたりできるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などにより退所した場合でも再度の受け入れを検討したり、他の施設の紹介や相互の連絡を継続している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員と利用者は馴染みの関係を築いており、普段から気軽に職員に相談したり一緒に談笑したりすることで、希望や意向を把握するように努めている。その情報は専用ノート（「申し送りノート」）にて共有されている。意向の表明が困難な利用者に対しては、本人だけでなく家族からお話を聞き、意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者との日常会話や食事の時に聞いた大切な言葉は、申し送りノートに記録し職員会で報告するなど職員間で共有している。また自分の思いを伝え難い利用者は、職員が日頃の様子や表情を見逃さないように努め、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 他の施設からの情報や入居時に作成したフェイスシート、利用者や家族との会話から得た情報をそのシートに追加するなどして生活歴を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行い、それを記録したり、利用者の言動や排泄の回数、食事や水分の摂取量を記録して健康状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) モニタリングシートを新しく作り直し、モニタリングの結果を定量化できるようにした。また、毎月一度行っているユニット会において、担当者だけでなく、すべての職員で一人ひとりの利用者の現状について気づいた点を話し合い、家族に連絡して意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや意向を把握し介護計画に取り入れている。毎月モニタリングを行いサービスの実施状況や変化を話し合い、3か月毎に計画の見直しを行っている。家族からは面会時や電話で状況を報告し要望を聞いている。また一連の書式を見直し、サービス内容と実施内容、モニタリングなどわかりやすくなっており、職員全員が共有し実践することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者ごとに経過観察記録を作成している。あわせて「申し送りノート」を活用することでケアの実践や介護計画の見直しなどに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 職員が季節の花々を施設に持ち寄り利用者に楽しんでもらったり、イラストを描くことが得意な職員が季節にちなんだ絵を描き、それをリビングに飾ったりするなど、既存のサービスに捉われない取り組みを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの活用や地域の小中学校と交流したり、近所の商店への買い物にでかけては花を購入してそれを愛でたり、近所の理容店からの出張散髪を利用したり、神社や公園を訪れたりして、楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診先については本人や家族と話し合い、希望先を受け入れて受診の送迎をしている。また施設の担当医が定期（月2回）の往診や急変時の往診ができる体制を築いており、普段から連絡を取り、利用者が適切な医療を受けることができるように支援している。	
			(外部評価) かかりつけ医は入居時に利用者や家族と話し合い、協力医に移行できるよう支援している。継続を希望する利用者は家族受診を基本としているが、車いす利用者の送迎などの場合は職員が協力している。協力医は月2回の往診と週3回の訪問看護で健康管理を行っているほか、急変時の対応も可能である。また眼科や歯科の往診もあり、必要に応じて受診することができ医療面は万全である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護と契約しており、週3回（火・木・土）訪問看護師に相談して指示を仰いだり、急変時にはその都度連絡して来所してもらいその指示を仰いで適切な看護や受診ができる体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者や家族と話し合いの場を設けて、安心して治療に専念できるように病院関係者と連絡をとりあったり、利用者を見舞うなどしたりして情報交換や関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時や、毎年行っている家族会において、終末期における施設のサービスを説明している。また、医療機関と連携してターミナルケアを提供している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族に事業所のターミナルケアについて説明し要望などを聞いている。これまでに3名の看取りを経験しており、利用者の病状に応じて医師、看護師、家族、職員など関係者と話し合い連携を図り、安心して最期を迎えられるよう支援している。	看取りケアを経験し、今後も利用者や家族の要望にそって受け入れていくことから職員全員で看取りに関する考え方の見直しを行うほか、機会ある毎に研修に参加するなど職員の更なるレベルアップを図り、利用者や家族がより安心して最期を迎えることができるようになることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応の仕方をわかりやすい図式にして、施設内に掲示している。また、施設内での研修では、急変や事故が発生した場合の対応方法について学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設は地域の避難場所となっており災害時には機能を活用できるように備えている。さらに地域の消防署の指導のもとでの避難訓練を行うことで、万が一施設で火災が生じたとしても、一人ひとりの職員が冷静に対応できるようにしている。	
			(外部評価) 年2回、日中と夜間を想定し内1回は消防署立会いの下避難訓練を実施しており、緊急連絡網を実践して職員全員が緊張感を持って非常事態に備えている。また事業所を地域の避難場所として提供するほか、水、乾パンなどを備蓄し災害時に備えており、地域住民との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の居室には無断で入らずノックや返事を得てから入室している。プライバシーに関する話は場所を変えてしたり、節度を持って声かけや対応をしている。	
			(外部評価) 個人情報には外に持ち出さないこと、日常生活の中でも必要以外にふれないよう統一しており、職員間で情報管理を徹底している。入浴時は羞恥心に配慮し、居室は利用者一人ひとりの家として捉え、入室時は必ずノックするほか、声かけ等には特に気を配り、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者から気軽に話しかけられる関係を築いており、押し付けの支援ではなく、選択できるような声かけをしてから支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物や散歩などの希望が利用者から出された場合には、職員が連携してその希望に添えることができるように対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員は、利用者の好みを理解して、季節に適した衣類を利用者が着用できるように衣替えや衣服の整理整頓、整容を支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日頃から、利用者が自発的に調理の下ごしらえや後片付けに協力してくれている。また、あらかじめ、食べ物の好みを聞いておき、それらの食材を使った料理を提供し、「おいしい」と好評をいただいている。	
			(外部評価) 食事は遅出職員が1日分の食材を購入し、勤務の職員がメニューを考え調理している。利用者の好みは入居時に聞き取っているほか、食事の残量や会話の中で把握し献立に取り入れている。自宅で使っていた茶碗、箸、コップを使用し、誕生日や敬老の日、お正月は特別メニューとしている。利用者は下ごしらえや後片付けをし、職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる。また魚は身をほぐしたり、刻み食、一口大、ミキサー食にするなど利用者に合わせて食事形態にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事と水分との摂取量を記録して健康管理に役立てている。また、希望者はペットボトルやポットなどで夜間の水分補給用にお茶を提供しており、その他の利用者についても状態などに応じて適宜水分補給の支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアが自立している利用者以外は毎食後声かけにて歯磨きやうがいをしてもらっている。義歯を使用している利用者については義歯洗浄の支援をしたり、訪問歯科診療を利用し、診断や治療を行っている。かかりつけ医がいる利用者については受診の送迎を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をもとにして、一人ひとりの利用者に合わせて排泄支援を行っている。	
			(外部評価) 日々の排泄記録を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者に合わせて声かけを工夫するなどトイレでの排泄を支援している。日中のリハビリパンツ、夜間のオムツやポータブルトイレなど利用者の状態に合わせて対応している。また転倒で打撲痛のある利用者などは日頃の様子をよく観察した上でのトイレ誘導により、日中はトイレで排泄が可能になるなど自立に向けた支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維を多く含む食材や乳製品を提供したり、緩下剤の調整や運動などを取り入れて、一人ひとりに合わせた便秘の予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望する時間帯を話し合い、入浴する時間を調整している。また、入浴時の安全に十分配慮して、2人で入浴介助するなど、楽しく入浴していただいている。	
			(外部評価) 浴室はシャワーキャリーを設置しているほか2人介助で対応しており、重度の利用者も安全に入浴することができる。入浴は1日置き、週3回を基本としているが、汗をかいた時など利用者の希望に合わせて対応したり、入浴剤を使うなど利用者と職員、1対1の対応でゆっくり入浴することができている。また入浴の苦手な利用者は声かけを工夫しスムーズに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者は自由に居室で休憩している。見守りが必要な利用者はリビングのソファで休んでいる。室温や湿度の管理に注意して快適に過ごせるよう努めている。寝具などは定期的に洗濯し、清潔を保持するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者ごとのお薬表を管理しており、服薬表に基づき薬を準備し服薬介助を行っている。体調の変化がある場合には、訪問看護や施設の担当医に指示を仰ぎ対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フェイスシートや普段の会話から、一人ひとりの生活歴やADLを把握して、調理や洗濯、草花の手入れ、軽い作業など、利用者が自ら参加し他の利用者と共にすることで気分転換の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 普段の会話から本人の希望を把握して実家や買い物に同行したり、天候の許す限り施設周囲の散歩で気分転換や運動の支援をしたりしている。また、折々の季節を感じていただけるように地域の公園に外出支援を行っている。 (外部評価) 行事担当職員が月1回の外出を計画し、紫陽花ロードドライブ、桜や菖蒲など季節の花の見物、気候等に合わせた事業所の周辺を散歩するなど、気分転換を図っている。また、利用者の誕生日にファミリーレストランに外出に外食に出かけるなど外出が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が管理できる範囲で金銭を所持していただいている。また、買い物の際には、本人がお店で支払いをしたり、自動販売機で使用したりできる支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望する利用者には施設の固定電話を自由に使って連絡をとれるように支援している。また、携帯電話を持ち込んでいる利用者もおり、自由に利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、職員間で担当を決め整理・整頓や清掃を行っている。また、そこに、季節感のあるアイテム（季節の花々や季節の行事に関係した置物など）を配置している。 (外部評価) 玄関を入るとユニットが左右に分かれ自由に行き来することができる。リビングは広く明るく調理場から全体を見通すことができ、利用者は自由に安全に過ごすことができている。空気清浄器をユニット毎に2台設置したり、職員が交代で清掃し清潔な環境の中で過ごすことができている。また季節の花や利用者の優しい笑顔の行事の写真を飾るなど、穏やかに過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングの座席配置は利用者の希望を基に決めており、時々状況により柔軟に対応している。利用者は自席やソファ、座敷などで思い思いに過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には使い慣れた物を持ち込んでもらっている。それらをどこに配置するかといったことは、利用者の希望を優先している。 (外部評価) 居室はベッドとエアコンが常備され、使い慣れた枕や布団を持ち込んで使用しており安心感がある。椅子、小さなダンス、鏡、位牌や孫の写真など自分のお気に入りのものを持ち込み、利用者の好みに合わせて配置している。また部屋の片付けは担当職員が行い、日勤者が交代で掃除し居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 施設の床には段差がなく、また壁面には手すりを設置するなど、安全な環境を整えている。自由に新聞を読んだり、利用者は自由にテレビ番組を選択したりしている。台所や洗濯室、倉庫にも自由に出入し、普段から職員と共同で作業している。	